

## プログラム

平成22年6月22日（火）

- 1310—1315 開会挨拶 米岡 修一（防衛研究所長）
- 1315—1320 来賓挨拶 中江 公人（防衛事務次官）
- 1320—1325 趣旨説明及び発表者の紹介 加賀谷 貞司（防衛研究所戦史部長）
- 1325—1415 特別講演 ジョージ・パッカード（米日財団理事長）  
“The US-Japan Security Treaty: Still a Grand Bargain after 50 Years?”
- 1415—1505 基調講演 北岡 伸一（東京大学法学部教授）  
「安保改定と日米関係の発展」
- 1505—1520 休憩
- パネル・ディスカッション  
司会 庄司 潤一郎（防衛研究所戦史部上席研究官）
- 1520—1540 発表1 楠 綾子（関西学院大学国際学部准教授）  
「吉田茂と日米同盟の形成」
- 1540—1600 発表2 千々和 泰明（防衛研究所戦史部教官）  
「安保改定における『相互性の確保』と『抑止力の維持』」
- 1600—1620 発表3 アンドリュー・オロス（ワシントン・カレッジ准教授）  
“The Revision of the US-Japan Security Treaty and the Current US-Japan Alliance”
- 1620—1640 コメント 中島 信吾（防衛研究所戦史部主任研究官）  
討議
- 1640—1655 フロアとの質疑応答
- 1655—1700 閉会挨拶 加賀谷 貞司（防衛研究所戦史部長）

## 参加者紹介

### 特別講演者

ジョージ・パッカード (George Packard)

現職：米日財団理事長

略歴：プリンストン大学卒業、日本滞在、東京大学留学を経て、タフツ大学フレッチャー法律外交大学院修了（博士）。エドウィン・ライシャワー駐日米大使の特別補佐官、『ニューズウィーク』ワシントン特派員、『フィラデルフィア・プレティン』編集長、ウッドロー・ウィルソン国際センター副所長、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院長、国際大学学長を経て、1998年から現職。

著書：『*Protest in Tokyo: the Security Treaty Crisis of 1960*』（1966年）、『ライシャワーの昭和史』（森山尚美訳、講談社、2009年）など。

### 基調講演者

北岡 伸一

現職：東京大学法学部教授

略歴：東京大学卒業、同大学院修了（博士）。プリンストン大学客員研究員、立教大学教授を経て、1997年から現職。2004-2006年まで国際連合日本政府代表部次席大使を務める。

著書：『日本陸軍と大陸政策—1906～18年』（東京大学出版会、1978年）、『日米関係のリアリズム』（中央公論社、1991年）、『日本の自立—対米協調とアジア主義』（中央公論新社、2004年）、『国連の政治力学—日本はどこにいるのか』（中公新書、2007年）など。

### 司 会

庄司 潤一郎

現職：防衛研究所戦史部上席研究官

略歴：筑波大学卒業、同大学院修了（修士）。防衛研究所助手、その後所員、主任研究官、第1戦史研究室長を経て、2008年から現職。2006年から「日中歴史共同研究」委員。

著書：『変動期の日本外交と軍事』（共著、原書房、1987年）、『大正期日本のアメリカ認識』（共著、慶應義塾大学出版会、2001年）、『日米戦略思想史—日米関係の新しい視点』（共著、彩流社、2005年）など。

#### 発表者（発表順）

楠 綾子

現職：関西学院大学国際学部准教授

略歴：神戸大学卒業、南カリフォルニア大学留学、神戸大学大学院修了（博士）。  
日本学術振興会特別研究員、大阪大学研究員を経て、2010年から現職。

著書：『吉田茂と安全保障政策の形成—日米の構想とその相互作用1943–1952年』（ミネルヴァ書房、2009年）、*The Sato Cabinet and the Making of Japan's Non-Nuclear Policy in *The Journal of American-East Asian Relations*, 2008*など。

千々和 泰明

現職：防衛研究所戦史部第2戦史研究室教官

略歴：広島大学卒業、ジョージ・ワシントン大学留学、大阪大学大学院修了（博士）。  
京都大学研究員、日本学術振興会特別研究員を経て、2009年から現職。

著書：*Japanese Public Opinion and the War on Terrorism*（共著、2008年）、「権威をめぐる相克—駐日米国大使と在日・在沖駐留米軍 1952-1972年」『国際安全保障』（第35巻3号）など。

アンドリュー・オロス（Andrew Oros）

現職：ワシントン・カレッジ准教授

略歴：南山大学留学、大阪外国語大学留学、南カリフォルニア大学卒業、ロンドン大学大学院修了、東京大学留学、コロンビア大学大学院修了（博士）。  
2009年、防衛研究所NIDSフェロー。

著書：*Normalizing Japan: Politics, Identity, and the Evolution of Security Practice*（2008年）；*Getting the Triangle Straight: Managing China-Japan-US Relations*（共著、2010年）など。

## コメンテーター

中島 信吾

現職：防衛研究所戦史部第2戦史研究室主任研究官

略歴：早稲田大学卒業、慶應義塾大学大学院修了（博士）。防衛研究所教官を経て、2009年から現職。

著書：『戦後日本の防衛政策―「吉田路線」をめぐる政治・外交・軍事―』（慶應義塾大学出版会、2006年）、「防衛庁・自衛隊史とオーラルヒストリー―『海原治オーラルヒストリー』を中心に」『年報政治学』（2005年）など。